

## まちなか活性化協働学習プロジェクト

まちなか工房代表教員 溝上章志

### 1. まちなか活性化協働学習会

まちなか工房のまちなか活性化協働学習プロジェクトの主事業である「まちづくり学習会」は、工房の4つの活動のうちの学習交流機会の提供を目的とした事業である。この学習会は、工房教員が中心となり、商店街や熊本市などの地元関係者、まちなかの将来に関心を持つ市民や学生を対象に、月一回のペースで開催している協働学習会である。中心市街地の環境整備やまちづくり方策に関する交流機会と情報提供を目的としており、県内外から招いた専門家や実務経験者による講演を聞きながら、参加者と意見交換をしている。工房教員、中心市街地の主要商店街リーダー、熊本市職員等で構成された幹事会で、毎回、開催日程、講演テーマや講師などを企画・準備している。

本まちづくり学習会も、平成17年7月以来、今年度末には通算84回の開催数となった。学習会には、毎回、商店街や行政職員だけでなく、まちづくりに興味を持つ一般市民を含めて20～50名が参加している。商店街からも招聘講師や講演内容の希望が出されるなど、著名講師のまちづくりに関する熱い語りを身近に聞く機会として定着している。

今年度は75回～84回までの計10回の学習会を実施した。そのうち2回は国内の大学の教員による講演であった。その他の8回のうちの5回は行政、2回は環境関連のNPOやエリアマネジメント組織、1回は他県の商業者による講演であった。いずれの講演もまちづくりへの熱い想いや秀でた企画技術についてであり、参加者は興味を持って聴講し、質問をしていた。

### 2. 「九州新幹線全盛開業で熊本都心部はどのように変化したか?～開業直後と一年後を比較して～」シンポジウム

まちなか活性化協働学習プロジェクトの一環として、8月8日には、すきたい熊本協議会との共催で、九州新幹線全盛開業で熊本都心部はどのように変化したかをテーマにしたシンポジウムを開催した。シンポジウムでの基調講演として、福岡大学都市空間情報行動研究所(FQBIC)から九州新幹線開業後の九州での人の動きが、まちなか工房の溝上教授からは熊本市中心市街地での来街者の回遊行動

の特性分析の結果が報告された。

FQBICからは、熊本は福岡ー鹿児島を中心に位置しながらハブ機能の発揮が不十分であること、大阪から熊本への移動は、飛行機よりも新幹線利用が増えていること、新幹線をビジネスで利用する人は増えたが、熊本市民にとっては福岡に行く機会が特に増えたわけではないこと、さらに、熊本市中心市街地では熊本駅周辺での人の動きが活発になっていることなどが報告された。また、観光客消費額や中心市街地来訪者の平均消費額などの推計値の報告もあった。

まちなか工房代表教員の溝上教授からは、熊本市中心市街地の人の回遊行動の新しい調査方法や回遊行動促進のための政策シミュレーションの枠組みについて、工房プロジェクトの研究結果が発表された。

当日は70人を上回る参加者があり、フロアからの質問や議論も活発に行われた。これは、熊本市中心部への新幹線開業の影響が数値的に分析されていること、これからのまちづくりにどのように取り組めば良いかのヒントが得られたことなどによるものと思われる。

### 3. 計画立案・協同学習のための討論技術習得講座の開催

まちなか活性化協働学習プロジェクトの一環として、NPOやまちづくりに関わる市民、行政職員、学生を対象にワークショップ企画・運営のための技術研修を実施した。これは、工房開設以降、初めての人材育成のための教育プログラムである。平成25年1月25日、2月1日、8日(いずれも18:30～21:00、於：まちなか工房)の3回シリーズで、毎回、課題を出し実際にグループワークを体験しながら、計画立案やWS開催のための技術を学習した。受講者は毎回、15名程度、講師はまちなか工房特定事業研究員の前田芳男氏であった。

1回目は、「アイデア出しを支援する技術」をテーマに、グループ討論をする際に、あらかじめ複数の着眼点を準備し個人に割り当て考えさせ、その後、与えた着眼点の特性を考慮して班編成しグループ討論

することが、アイデア出しにおいて効果的であることを学んだ。

2 回目には、「コトの本質を多面的に捉える」をテーマに、「上通商店街の魅力の本質，他商店街との差別化のポイントはどこか」をグループ討論した。熊本市中心部の上通，下通，新市街，並木坂，鶴屋百貨店など，様々な通りや店の特性や魅力を私たちはどのような言葉で認識しているのだろうか。その具体的な言葉を抽出する方法として，例えば，「母娘で歩くのに最もふさわしいのは」という観点で上記の商店街や店を順位づけし，優劣の理由を述べ合う討論が有効であることを学んだ。

3 回目は，「PDCA をCベースで考える」をテーマに，一つの課題として「虫歯予防の絵画コンクールに参加した小学校は，その後に児童の平均虫歯保有数が減るか」について，その検証方法を話し合った。こうした議論の結果，絵を描いても虫歯は減りそうにないし絵画も上達しそうにないとなれば，そもそもコンクールに参加する意味がない。そのようなことにならないためにも，Plan と同時に Check の方法を明確にしておくことが不可欠であるということ学んだ。

本講座の参加者には，まちなか工房名で修了証を授



図-1 技術習得講座の様相

与している。また，事後に行った受講者へのアンケートでは，現在自分が抱えている業務を題材にしてワークショップの組み立てや運営を疑似体験する実践型研修のニーズが高かったことから，平成 26 年度はより充実させた人材育成プログラムを提供する予定である。

表-1 平成24年度に開催したまちづくり学習会

回	日時	テーマ	講演者	所属
75	4月19日	熊本市のまちなかの下水道について	藤本 仁	熊本市上下水道局計画調整課
76	5月24日	専門知識を教えて消費者とコミュニケーション	松井洋一郎	岡崎まちゼミの会
77	6月28日	これからの省エネと温暖化対策	宮原美智子	熊本温暖化対策センター
78	8月8日	九州新幹線全線開業で熊本都心部はどのように変化したか	齋藤 参郎	FQBIC
79	9月20日	桜町、花畑周辺地区 まちづくりマネジメント基本構想について	角田 俊一 永野 康裕	熊本市都市活性推進課課長補佐 熊本市都市活性推進課 主査
80	10月25日	白川整備のこれまでとこれから	中元 道男 星野 祐司	国土交通省熊本河川国道事務所調査第一課 課長 熊本大学大学院自然科学研究所准教授
81	11月22日	日本のアーケード街・世界のアーケード街	辻原万規彦	熊本県立大学 准教授
82	12月20日	中心市街地の不動産の動向	麻生田栄壽 南 良輔	株式会社 鑑定ソリュート熊本 熊本城東マネジメント株式会社
83	2月21日	持家活用住み替えモデル事業	河野 修治 堀 貴博	株式会社人間都市研究所 所員 熊本市都市建設局建築計画課 主任技師
84	3月21日	中心市街地と交通体系の再デザインに関する主な3つの取り組み	田代 尊久 野津 博志 土屋 裕樹	熊本市都市建設局都心活性推進課 主査 熊本市都市建設局都心活性推進課 技師 熊本市都市建設局交通政策総室 主査